



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
6/19 (月)	+ 100	+ 7,900	+ 8,000	国庫短期証券 発行・償還 (3M)	補充供給 貸出増加支援	国債買入 貸出増加支援 + 15,600	米：休場
6/20 (火)	トン	+ 69,000	+ 69,000	国庫短期証券 発行・償還 (1年) 国債大量償還・利払い			
6/21 (水)	▲ 1,000	+ 2,000	+ 1,000				日：日銀金融政策決定会合議事要旨 (4月27・28日分)
6/22 (木)	▲ 1,000	+ 1,000	トン				米：経常収支 (1Q) 英：BOE政策金利発表
6/23 (金)	トン	▲ 18,000	▲ 18,000	国債発行 (5年)			日：全国CPI (5月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初53兆5,700億円から始まり、14日までは横ばい圏で推移した。15日には年金定時払いがあり、54兆5,100億円まで増加し、週末となる16日は国債買入オペがスタートしたため54兆6,300億円を越えた。
無担保コールON物加重平均金利は先週末対比▲0.030%の▲0.058%から始まった。積み期間終盤入りしたことで大手行・地銀業態の調達ニーズが大幅に減退したため、同金利は13日▲0.079%まで低下し、積み最終日となる15日には▲0.070%となった。新積み期初日の16日はビッドサイドの様子見姿勢が強く、同金利は▲0.060% (予想) と小幅上昇した。
ターム物は1~2W物を中心に▲0.060%~▲0.050%程度の水準で出が見られた。
来週の予定は、国内では21日に4月27・28日の日銀金融政策決定会合議事要旨の公表、23日に全国CPI (5月) があり、海外では22日に英、スイスなど複数の国で政策金利の公表がある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.020 ~ 0.020
2M	0.010 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

<レボ>

足許GCIは週初▲0.09%近辺の出合いから始まり、13日の取引では▲0.11%~▲0.100%に低下した。その後は▲0.10%~▲0.09%のレンジで推移し、金融政策決定会合2日目となる16日の取引でもレートに大きな変化は見られなかった。
SC取引は2年438~449回債、5年149~158回債、10年350~370回債、20年180~184回債、30年65~78回債、40年13~15回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.010

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆1,200億円で、週間償還額 (約7,600億円) を上回った。発行市場は、四半期末に向けた有利子負債圧縮の動きの予想に反して化学や小売、鉄鋼等の複数業態で大型案件が見られ、発行超となった。発行残高は前週末の25兆9,608億円から15日時点で26兆2,542億円と増加した。発行レートは一部マイナス圏での発行も見られ、概ね0%から小幅なプラス圏での出合いが中心であった。
来週の週間償還額は、約4,300億円となっている。発行市場は、四半期末に向けた有利子負債圧縮の動きもあり、落ち着いたマーケットとなることを予想する。発行レートは、0%近辺での出合いが中心となることを予想する。

<TDB>

6月15日の3M (1163回債) の入札は、最高落札利回り▲0.1308% (前回債▲0.1663%)、平均落札利回り▲0.1526% (前回債▲0.1792%) となった。
来週は19日に1Y、23日に3Mの入札が予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。